# 広島県立美術館
# アート・トーク入門

## ── 教室でできる美術館鑑賞 ──

県立美術館ガイド▲
ミューズちゃん

広島県立美術館

# 目　　次

はじめに …… 1

アート・トーク …… 2

実践授業例 …… 3

アート言葉カード …… 21

作家・作品解説 …… 24

CD教材リスト

- PowerPoint教材（6教材ーPowerPointファイル）
- アート言葉カード（3点ーPDF）
- ワークシート（6点ーPDF）
- 「広島県立美術館　アート・トーク入門
  ー教室でできる美術館鑑賞ー」の冊子（PDF）

# はじめに

広島県立美術館では、大学等の教育・研究機関や学校との連携を通して、子どものための美術鑑賞の学習開発や所蔵作品に関する教材開発を進めてきました。広島大学大学院教育学研究科の中村和世准教授の御指導を賜りながら、平成21年度から取り組んだアートカードの作成は、その一例です。当館のアートカードは、所蔵作品の中から代表的な56点を選んでカード化したもので、その一般的な使い方や授業の事例は『広島県立美術館アートカード入門ー鑑賞学習へのヒントー』（平成23年7月31日発行）によって詳しく紹介しています。なお、同様のデータを当館ホームページにおいても公開しています。

今回は、米国フィラデルフィア市において実践されている小学校と美術館とのユニークな連携事例「アート・スピークス！（Art Speaks!）」を手掛かりに、今日の日本の学校教育で課題とされている「言語に関する能力」の育成を考慮した美術鑑賞の学習開発を行いました。引き続き中村准教授の御指導のもと、広島県の小学校図画工作科教育を専門とする6名の先生方にPowerPointを用いた作品鑑賞のモデル授業を実施していただき、その事例を紹介したものが本冊子です。実際に学校の授業で用いることができるよう、各種データをCDに収めています。

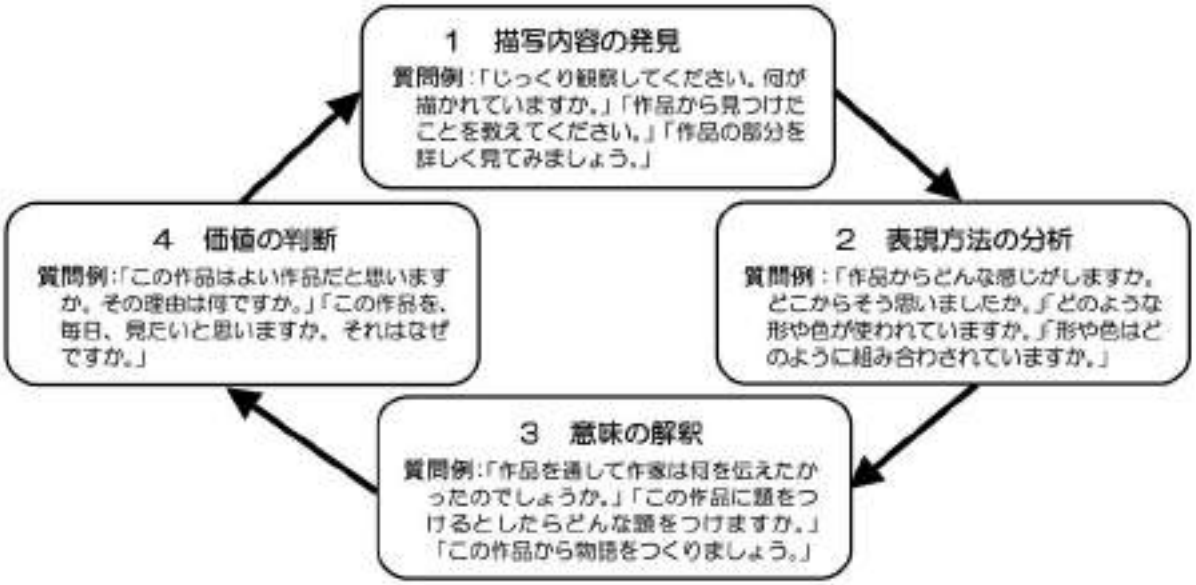
美術館で実際に作品を鑑賞することが適わない場合も、PowerPoint教材を用いることにより、学校にいながら多彩な美術作品を疑似体験することができます。本教材の活用を通じて、子どもたちが美術と出会う楽しさを感じ、美術館がより身近な存在となれば幸いです。

広島県立美術館長

# アート・トーク

## アート・トークとは？

アート・トークとは、対話を中心とした学習形態による美術鑑賞法であり、知識を伝授することよりも、知識の活用力や子どもの美術に対する好奇心・探究心を養うことをねらいとしています。アート・トークによる学習は、以下の図に示すように、４つの基本的活動から構成されます。




## アート・トークによる鑑賞学習の指導ポイント

- □ 子ども自身による作品からの発見を促す。
- □ 子どもの感じ方・考え方を認め、励ます。
- □ 友達との交流を活性化する。
- □ 作品の造形要素・構成などに根拠を持たせる。
- □ 子ども自身のよさや美しさの基準を広げ深める。
- □ 知識や言葉などの活用に指導の重点を置く。

## 「広島県立美術館アート・トーク―教室でできる美術館鑑賞―」の特徴と使い方

本書は、小学校の授業１単位時間（45分間）でできる低・中・高学年の発達段階を考慮した鑑賞学習の指導案、PowerPoint教材、ワークシート、アート言葉カード、作品解説から構成されます。すべての学習において比較鑑賞法を適用し、２点以上の作品の共通点や相違点を話し合う活動を通して、子ども自身による新しい発見を促し美的判断力が培われるよう工夫しています。鑑賞作品は、広島県立美術館の所蔵作品から子どもの興味・関心に合うことを第一に選定し、広島県にゆかりのある作家の作品を中心にすることで、広島県の美術文化に親しませることを目的としています。アート言葉カードは、小学校学習指導要領に示されている低・中・高学年ごとの美術用語を踏まえて作成し、アート・トークを通して美術用語の活用力を高めることをねらいとしています。

本教材は、文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編』（平成20年）で示されている「鑑賞指導における美術館等との連携」を促進するために作成されたものです。本教材を手掛かりとして、児童や学校の実態に応じた美術館等との連携による学習指導が、各学校において開発されることが望まれます。

（文責：中村　和世）

# 題材名「森の中からきこえてきたよ」

広島市立本川小学校　西田　恭子

作品：「薄明」　善鳴人
対象学年：低学年

1　ねらい

・絵を見て、自分の思いを話したり、友達の思いを聞いたりして、見ることの楽しさを味わう。

2　学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| ○作品「薄明」と出会う。<br>「見つけたものを教えてください。」 | ・PowerPoint教材を開いてフクロウの鳴き声を聞かせた後、絵を提示する。<br>・作品から見つけたものを自由に発表させる。<br>・造形要素(形・色・線)に着目できるように、分けて板書する。 |
| ○本時の学習のめあてを確認する。 | |
| 絵から聞こえてきたお話をつたえよう | |
| ○聞こえてきた話を吹き出しに書く。<br>「絵の中からどんなお話が聞こえてきますか。」<br>ワークシートの絵にある番号を選び、番号と聞こえてきた話を、吹き出しに書く。 | ・絵の部分を拡大したPowerPointのスライドを用いて、詳しくみることができるようにする。<br>・絵の中の気に入った部分を選び、聞こえてきた話をワークシートの吹き出しに書かせる。 |
| ○意見交流をする。<br>「聞こえてきたお話を友達に伝えましょう。」<br>・ペアトーク<br>・クラス全体 | ・部分に着目して、作品をしっかり見ていくことで、見る楽しさが広がることや、一人一人の見方や感じ方が違うことを確認する。 |
| ○森に名前を付ける。<br>「この絵の森に名前をつけましょう。」 | ・森に名前を付けることで、絵から受けたイメージを言葉で表すことができるようにする。<br>・絵全体の感じを味わわせる。 |
| ○学習のまとめをする。 | ・作品名、作家名と広島県出身であることを知らせる。<br>・広島県立美術館の写真を提示し、地域の美術館で本物の作品を見ることができることを知らせる。 |

授業風景

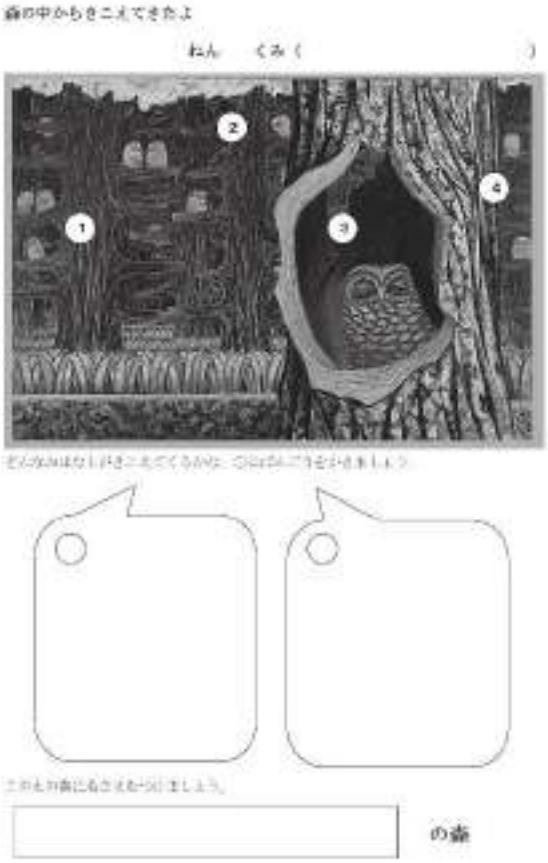
子どもの感想

☺こんな勉強があるとは思わなかったです。とってもおもしろかったです。もう一回してほしいと思いました。

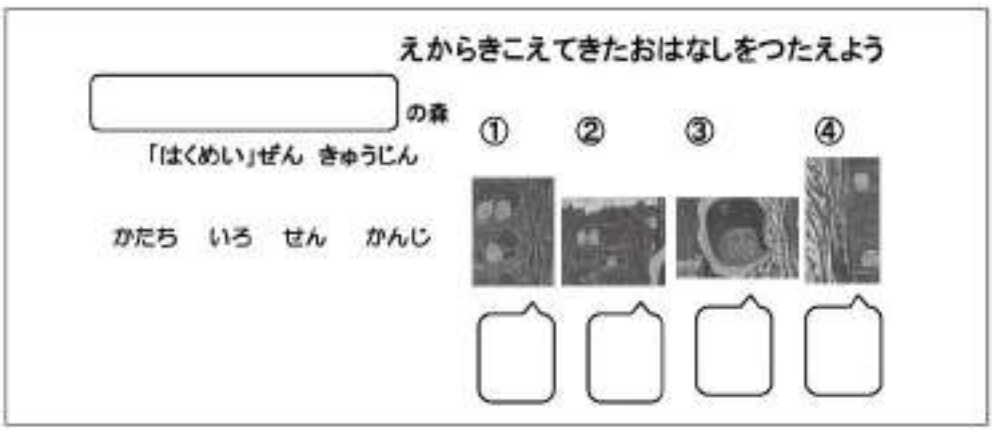
☺いろんな形を見つけるのが楽しかった。始めは、カラスかと思っていて、フクロウだったのが分からなかった。いろんなことを見つけるのが楽しかった。

☺フクロウの絵の本物の絵を見に行きたいです。また、同じ勉強をしたいです。

ワークシート




板書計画



PowerPoint教材の構成

1.「何の鳴き声でしょう。」スタートと同時に、フクロウの鳴き声が聞こえてくる。何の鳴き声か想像することで、児童の興味・意欲を高める。

2.「見つけたものをおしえてください。」①②③④をクリックすると部分の拡大画像をみることができる。アート鑑賞カードを活用しながら、児童自身におくさんの発見をさせる。

3.「見つけたものをおしえてください。」絵の部分に置口させる。

4. 絵の部分に心目させる。

5. 絵の部分に心目させる。

6.「どんなお話が聞こえてくるかな。」絵に描かれているいろいろなノクロウに心目させながら自由で想像させる。

7.「どんなお話が聞こえてくるかな。」①②③④の箇所にあるフクロウに着目させ、ワークシートの吹き出しに、聞こえてきた声を書かせる。①②③④をクリックすると、部分が拡大される。

8.「この森に名前をつけましょう。」最後に絵の全体を見て、「○○○の森」というように森に名前をつける。

9.「これは、広島にある県立美術館です。今日、勉強した絵は、この美術館で見ることができます。」広島県立美術館を紹介する。

＊本ページに掲載しているスライドは、授業の流れが分かるよう、代表的なものを選択しています。

# 題材名「色絵馬をしょうかいします」

広島市立古島東小学校　加嶋　真子

作品：「伊万里柿右衛門様式色絵馬」
対象学年：低学年

1　ねらい

・作品を見て、形や色、表し方の面白さに気がつき、感じたことを話したり、友人の話を聞いたりして、作品を見ることの楽しさを味わう。

2　学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| ○作品「伊万里柿右衛門様式色絵馬」と出会う。<br>「これ、なあに。」 | ・PowerPoint教材を用いて色絵馬のスライドを提示する。<br>・気付いたことを自由に発表させる。<br>・造形要素（形・色・線・感じ）に分けながら、板書する。 |
| ○本時の学習のめあてを確認する。 | |
| 色絵馬をしょうかいしよう | |
| ○お気に入りの色絵馬を選んで、紹介カードを書く。<br>「お気に入りの写真を選んで、色絵馬の紹介をしましょう。」 | ・スライドを提示しながら、色絵馬は対になっていることを知らせる。<br>・４枚の色絵馬の写真の中から、お気に入りの１枚を選んで、紹介カードを書かせる。<br>・誰に紹介するのかを明確にし、形や色、表し方など造形的な特徴に着目して、紹介カードが書けるようにする。<br>・作品を詳しく見ることができるように、グループで１セットずつ色絵馬の写真を用意しておく。 |
| ○意見交流をする。<br>・ペアトーク<br>・クラス全体 | ・自分の選んだ色絵馬を、友だちに紹介する。 |
| ○本時を振り返る。 | ・作品をしっかり見ていくことで、見る楽しさがひろがることや、一人一人の見方や感じ方がちがうことを確認する。<br>・スライドを提示しながら、色絵馬は伊万里色絵花卉文輪花鉢と同じ材料でできていることを知らせる。<br>・広島県立美術館と展示室の様子がわかるスライドを見て、地域の美術館で本物の作品をみることができることを知らせる。 |

授業風景

子どもの感想

- 最初、色絵馬が獅子舞だと思いました。美術館に行って本物を見てみたいです。
- 色絵馬を実際に作ってみたい。実際に触ってどんな物か知りたい。
- すごく馬がおもしろくて笑うような馬でした。色、形、線、感じがいっぱい出て嬉しかったです。
- 僕は、色絵馬を初めて知りました。いろんなことを見つけたから楽しかったです。またやりたいです。

ワークシート

## しょうかいカード

年　組（　　）

［　　］にしょうかいするよ。

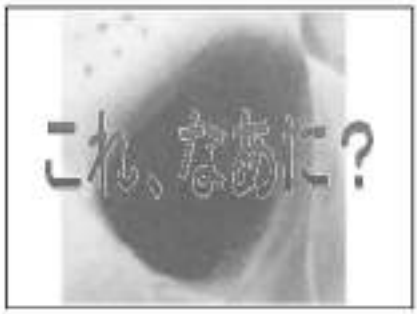
◎色絵馬の　　を見てください。

板書計画

色絵馬をしょうかいしよう

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| これ、なあに | 色 | 形 | ①の写真 | ②の写真 |
| | 線 | かんじ | ③の写真 | ④の写真 |

PowerPoint教材の構成



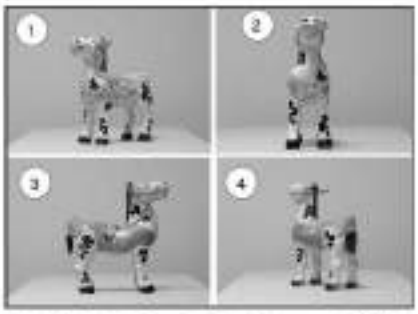

1.「これ、なあに。」「何に見えますか。」気がついたことを自由に発表させる。造形要素（色・線・形・感じ）に分けながら板書する。

2. クローズアップして顔の部分に着目させる。

3.「気がついたことを言いましょう。」色絵馬のいろいろな角度からの写真を見て、気がついたことを自由に発表させる。造形要素（色・線・形・感じ）に分けながら板書する。

4.「色絵馬の紹介をしましょう。」めあてを提示する。

5.「色絵馬は対になっています。」色絵馬は対になっていることを知らせる。




6.「お気に入りの写真を選んで、色絵馬を紹介しましょう。」4枚の写真の中から、お気に入りの1枚を選んで、紹介カードを書かせる。

7.「今日は、色絵馬の勉強をしましたね。」「この色絵馬は、『伊万里柿右衛門様式色絵馬』という作品です。」作品名を知らせる。

8.「この鉢は『伊万里色絵花弁文輪花鉢』です。」「色絵馬と同じ材料で出来ています。」同じ材料でできた作品も紹介し、素と感を提供する。

9.「色絵馬は、広島県立美術館に行くと見ることができます。」広島県立美術館に色絵馬があることを知らせる。

＊本ページに掲載しているスライドは、授業の流れが分かるよう、代表的なものを選択しています。

# 題材名「これ　なあに？」

広島市立宇品小学校　増田　紀美

作品：「笑いの稽古」　熊倉順吉
対象学年：中学年

1　ねらい

・やきものの材料による感じを味わいながら、作品のよさや面白さを感じ取ることができる。

2　学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| ○作品「笑いの稽古」と出会う。<br>○題材名「これ なあに?」を提示する。 | ・PowerPoint教材を用いて、作品をいろいろな角度から鑑賞する。<br><br>・自由に感じたことを交流する。<br>・形・色・材料に着目させ、児童からの自由な発見をうながす。必ず作品に描かれているものに根拠をもたせる。 |
| ○やきものの他の作品を紹介し、材料による感じから味わうことを手助けするため３つの視点でまとめる。<br>「なにで　できてる?」<br>「さわったら…?」<br>「もってみたら…?」<br><br>○本時の課題を知る。 | ・やきものとは何かについて説明する。<br>・以下の3点を見せ、いろいろなやきものの作品があることに気づかせる。<br>＊「條」（今井政之）<br>＊「象嵌蒔絵瀬戸の幸大皿」（今井政之）<br>＊「鳥のプロペラ」（鈴木治） |
| やきものの材料による感じを味わおう | |
| ○自分がつけた作品名と理由をワークシートに書く。<br><br>○グループで交流する。<br><br>○クラス全体で交流する。<br><br>○学習の振り返りを行う。 | ・自分の考えた作品名を発表する。どの部分からそうつけたのか、よさや面白さの根拠を明らかにして発表する。<br><br>・自分が自分なりに感じてつけた作品名もよいことを知らせる。作家がつけた名前には作家の思いがこめられていることを知らせる。<br><br>・学習を振り返る。 |

## 授業風景

## 子どもの感想

☺この作品を熊倉さんはどういう思いでつくったのか、どうしてこの名前をつけたのか、みんなはどう思っているのかが分かってとても楽しかったです。他の焼き物も見てみたいです。

☺美術館などに置いてある作品は適当に作っていると思っていたけれど、名前を付けたり人の意見を聞くと、作品名は作品を引き立たせる大切なものなんだなと思った。

☺「笑いの稽古」（作家の付けた名前）の願いが伝わってきました。これからも、もっと色々な焼き物を見てみたいです。

## ワークシート

これなあに？

名前（　　）

私が考えた作品の名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

わけ

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

## 板書計画

これ　なあに？

（児童の発言を板書する）
お母さん
赤ちゃんのいるおなか
（手・おへそから）
ベートーベン
（かみ形）
女の人
太っている人
おなか
どうぞう
土をかためたもの

やきもの

なにで　できている

ねんど　どろ

さわったら・・・？

ざらざら
ちくちく

ちってみたら・・・？

重い　かたい

笑いの稽古

くまくら　じゅんきち

やきもののざいりょうによる感じをあじわいながら
よさやおもしろさなど感じたことを伝えあおう

希望・・・おなか　形
かえる・・・さかさから形
いのり・・・おなかの中の赤ちゃん
自由・・・作者が自由
未来・・・丸い地球

PowerPoint教材の構成

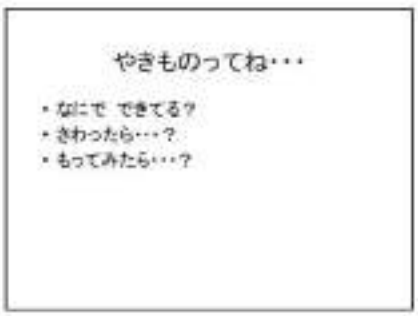
1.「この写真は広島市中区の県立美術館です。」「今日はここに飾られている作品について学習します。」今日の学習内容について知らせる。

2.「これ なあに？」（題材名を提示する。）「作品をまわりながら、ぐるっとみてみましょう。」いろいろな角度から撮った作品画像をみる。

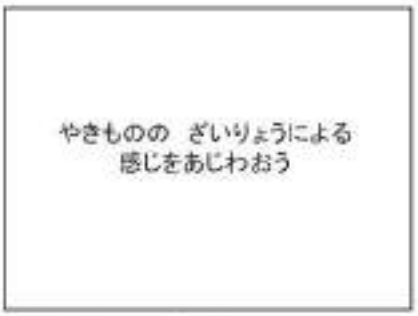
3.「これはなんだと思いますか？」「どこから そう思いますか？」「これは やきものです。」作品の形、色、材料に着目させる。

4.「やきものって どんなものだと思いますか？」多様なやきものの作品を紹介する。

5.「これは、鈴木治という作家がつくった『鳥のフコベラ』という作品です。」やきものは花びんなどの実用品に限らないことに気付かせる。




6.「なにで できてる？」（例：土）「さわったら・・・？」（例：ざらざら、すべすべ）「もってみたら・・・？」（例：重い、ずっしり）3つの質問を中心に、作品の造形的な要素について考える。




7.「やきものの ざいりょうによる感じをあじわおう。」授業のねらいを伝える。

8.「あなたは、この作品にどんな名前をつけますか？」ワークシートに作品名と理由を書く。グループで交流した後、クラス全体で話し合う。

9.「これは熊倉順吉さんがつくられた『笑いの稽古』という作品です。」「名前がぴったりだと思う人？」「みんながいろいろな名前を考えてくれたことが作家の熊倉順吉さんもうれしいと思いますよ。」作家がつけた作品名と児童が考えた作品名を比較させることで新しい発見を促す。

＊本ページに掲載しているスライドは、授業の流れが分かるよう、代表的なものを選択しています。

# 題材名「どんな曲がきこえるかな」

広島大学附属小学校　國清　あやか

作品名：「ある音楽家のための楽譜」　パウル・クレー
対象学年：中学年

1　ねらい

・造形要素の形や色に着目しながら，五感をはたらかせて作品を味わうことができる。

2　準備物

図版の拡大したもの（黒板掲示用）、ワークシート

3　学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| ○五感を働かせて線からイメージを膨らませる。<br>「どんな『音』を感じますか。」 | ・PowerPoint に映し出された２種類の線（直線／曲線）から感じる「音」を発表し共有させる。 |
| ○五感を働かせて作品を鑑賞する。<br>「どんな『音』を感じますか。」 | ・「ある音楽家のための楽譜」をモノクロで提示し、形のみに着目させて音を感じとらせる。<br>・カラーの作品を提示し、色と形に着目させて音を感じとらせる。<br>・作品から「音」を感じとらせ、五感でキャッチメモに記入させる。 |
| 色や形から曲を想像しよう。 | |
| ○五感でキャッチメモを基に、色と形に着目し、どんな曲がきこえてくるか想像する。<br>「どんな曲がきこえてきますか。」 | ・五感でキャッチメモの言葉を手がかりに、色と形に着目させて、曲名を想像させる。 |
| ○鑑賞交流活動を行う。<br>・ペアトーク<br>・クラス全体 | |
| ○鑑賞交流活動を行う。<br>・ペアトーク<br>・クラス全体 | ・「ホフマンの舞台」と「ある音楽家のための楽譜」を形や色について比較しながら、曲名を想像させる。<br>・音楽にも造詣のあったクレーが、音を色や線で表したことを学ばせる。 |
| ○本時の振り返りを行う。 | ・色や線や形で音を表現できることを発見させる。<br>・２点の作品は、広島県立美術館に収蔵されていることを知らせ、本物を鑑賞しようと誘う。 |

授業風景

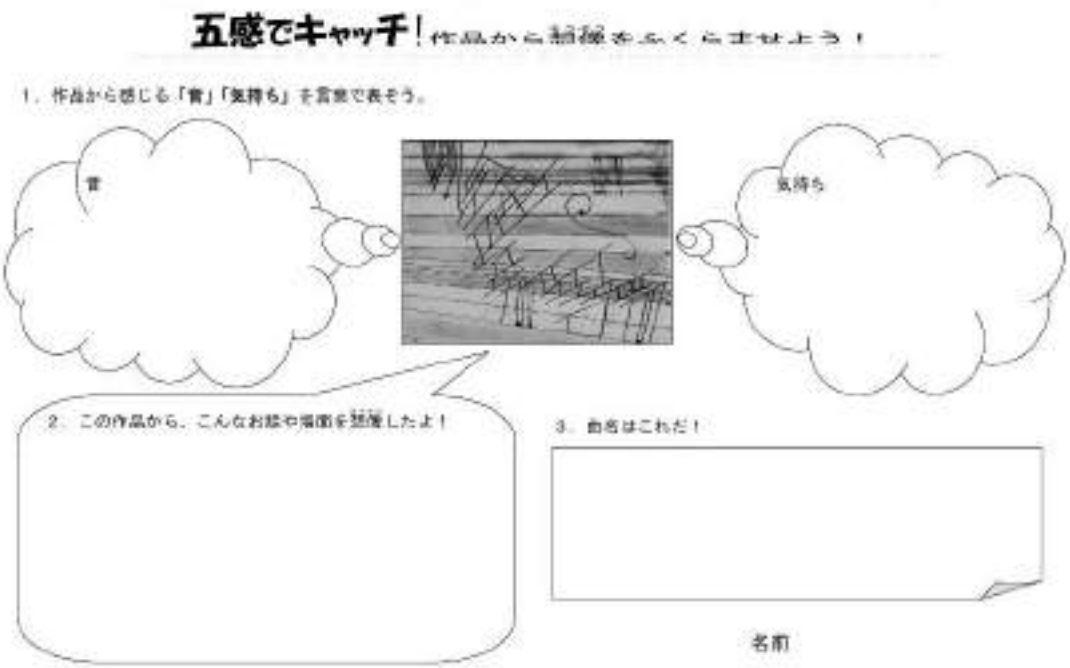
子どもの感想

☺パワーポイントだからすごくきれいで、細かいところまで分かるし、きれいだから、たくさん新しく発見したことがあったから楽しかった。

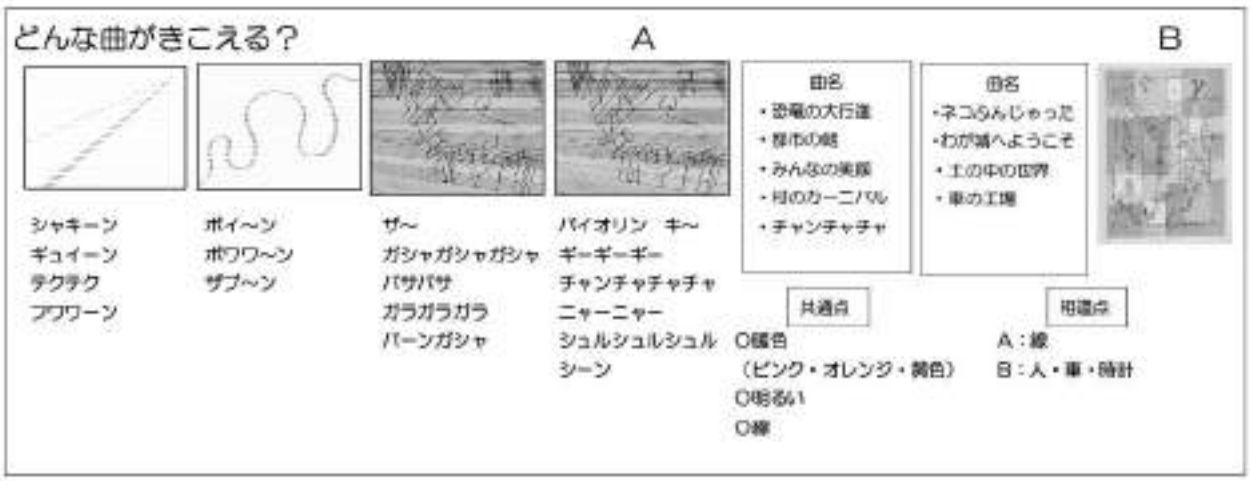
☺広島県立美術館に行ったことはないから、絵画を鑑賞するために、はやく美術館に行って、作品を見てみたい。

☺意味のない様な色や形から、いろいろな発言が出てきたので、すごくよかったと思った。

ワークシート




板書計画




※PowerPoint教材によるスライドと合わせて，黒板に図版を提示し，児童の発言を板書し，共有を図った。

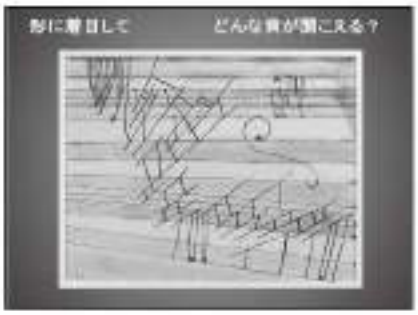
PowerPoint教材の構成

1.「これから見る形や色から、どんな音が聞こえてくるでしょうか。」「さあ、目の体操ならぬ、五感の体操です。」「こ、は、鼻、手、肌、心をしっかり働かせて、感じ取ってください。」

2.「ここに、短いまっすぐな線と太いまっすぐな線が描いています。」「あなたは、この2本の線からどんな音が聞こえてきそうですか?」「思いがけない音を発表してください。」

3.「今度は、山がった線がありますよ。」「左下から右上に山がりながら伸びています。」「あなたは、この線からどんな音が聞こえてきそうですか?」

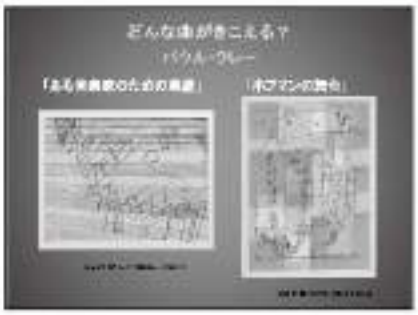
4.「不思議ですね。音には形がないのに、直線や曲線がつくりだすからいろいろな音が聞こえて来ましたね。」「友達と、同じような感じ方もあれば、違う感じ方もありましたね。」




5. 「では、今度は、いろいろな線の組み合わされた作品を紹介します。」「短い直線、長い直線が組み合わされていますね。」「曲線も使いますよ。」「小さなかいもありますね。」

6.「この作品にはどんな色が使われていますよ。」「形と色が組み合わされるとどうですか。」「どんな音が聞こえてきそうですか?」「浮かんできたイメージをどれから選ぶか表でキャンデのプリントに書いてみましょう。」「それでは、みんなで交流したいと思います。考えと曲名を発表してください。」

7.「ここで、もう1点作品を紹介します。」「先程見た作品と似ているところがありますか。」




8.「二つの作品を並べて比べてみましょう。」「似ているところがありますか。また、違うところがありますか。」「実は、紹介した2点の作品、両方ともパウル・クレーという画家の描いた作品です。」「今度は、目から、イメージを膨らませて、色や線や形で表現してみましょう。」

9.「今日、皆さんと鑑賞したパウル・クレーの作品に2点とも、広島県立美術館に収蔵されています。」「広島県立美術館に足を運んでみましょう。パウル・クレーの本物の作品と向き合って、目を閉じてみてください。」

＊本ページに掲載しているスライドは、授業の流れが分かるよう、代表的なものを選択しています。

# 題材名「風景からみえる物語」

広島市立観音小学校　柳原　真由美

作品：「待月」 奥田元宋　「風景（新橋）」 南薫造
対象学年：高学年

1　ねらい

・形や色などの造形要素に着目しながら風景画を鑑賞し、表し方の異なる作品のよさや美しさを感じ取ることができる。

2　学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| ○「待月」と「風景（新橋）」の作品のスライドをみて、それぞれの絵の感じや描かれているものを見つけて、話し合う。<br>「どんな感じがしますか。」<br>「何がかいてありますか。」 | ・大型テレビにPowerPoint教材を映し出す。最初は１枚ずつ映す。<br>・絵について発表したことを確かめるために、部分が拡大してあるスライドを提示する。 |
| 作品の違いを感じながら、物語を作ろう。 | |
| ○好きな１枚を選び、２枚の相違点と共通点を話し合う。<br>「好きな１枚を選んで、理由を話しましょう。」<br>「二つの絵の違うところはどこでしょうか。」<br>「二つの絵の同じところはどこでしょうか。」 | ・比較鑑賞しやすいように、２枚を同時に提示する。<br>・絵に描かれているものだけでなく、形や色などの造形要素などに着目させながら、選んだり比較させたりする。 |
| ○物語を作る。<br>「選んだ絵をよくみながら、物語を作りましょう。」 | ・ワークシートに物語の考えをまとめさせる。 |
| ○本時のまとめをする。 | ・広島県立美術館の正面写真と、展示されている様子が分かるスライドを見せ、地域の美術館の所蔵作品であることを知らせる。 |

授業風景

子どもの感想

☺ 私は、パソコンでの絵を見て、実際に本当の絵を見てみたいと思いました。その作者が、どうやって描いているのか、どんな気持ちで描いているのか、想像してみたくなりました。美術館で、じっくり色々な絵を見てみたいです！

☺ 一つの絵で色々な想像ができて物語まで創ることができました。二つの絵を見比べて一つ一つの絵のいいところが見つけられました。

☺ 僕はあまり絵に興味がなかったけど、今日、パソコンで絵を見て少し絵が好きになりました。絵には、画家の思いが入っているのだなと思いました。楽しかったです。

ワークシート

**作品の違いを感じながら、物語を作ろう。**

年　組（　　）

選んだのは、　**山の絵**　**街の絵**　です。

板書計画

| 1枚目の絵 | ちがうところ | 2枚目の絵 |
|---|---|---|
| ・山　・川　・湖<br>・自然　・田んぼ<br>・空　・月の光　・太陽の光<br>・しずかなふんいき<br>・おだやか<br>・暗い | 自然⟷街<br>しずか⟷にぎやか<br>暗い⟷明るい<br><br>**同じところ**<br>・筆の使い方→同じ人の絵？<br>・人が暮らしている | ・街　・ビル　・道路<br>・機関車　・自動車<br>・空　・人<br>・にぎやかなふんいき<br>・うるさそう　・ざわざわ<br>・明るい<br>・元気な感じ |

PowerPoint教材の構成

1.「どんな感じがしますか。何が描いてありますか。」作品に描かれているものを自由に発見させ、作品から受ける感じについて話し合う。①②③④⑤⑥の番号をクリックすると拡大画像をみることができる。

2. 山頂付近と空や月光など、絵の部分についてじっくりみる。

3.「どんな感じがしますか。何が描いてありますか。」作品に描かれているものを自由に発見させ、作品から受ける感じについて話し合う。①②③④⑤⑥の番号をクリックすると拡大画像をみることができる。

4. 蒸気機関車や通りの様子など、絵の部分についてじっくりみる。

**作品の違いを感じながら、**
**物語を作ろう。**

5. 学習のめあてについて提示する。

6.「待月」と「風景（新橋）」を比較鑑賞し、それぞれの作品の表し方の特徴について新しい発見を促す。

7.「待月」と「風景（新橋）」を比較鑑賞し、それぞれの作品の表し方の特徴について新しい発見を促す。

8. 児童一人ひとりが作品から感じたことをもとにして物語を作る。

9.「待月」と「風景（新橋）」は、広島県立美術館にあることを知らせる。

＊本ページに掲載しているスライドは、授業の流れが分かるよう、代表的なものを選択しています。

# 題材名「くらべて見ると」

広島市立古島東小学校　佐々木　芳

作品：「タクト」「ページェント」「月夜の僧」　圓鍔勝三
対象学年：高学年

1　ねらい

・郷土の作家である圓鍔勝三の３作品の共通点や相違点を考えることを通して、いろいろな材料を使って表現することのおもしろさに気づく。

2　学習の流れ

| 学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| ○広島県立美術館のスライドを見る。<br>「今日学習する作品が所蔵されている美術館です。」 | |
| ○３点の作品のスライドを見る。<br>＊「タクト」<br>＊「ページェント」<br>＊「月夜の僧」<br>「どの作品が好きですか。」 | ・PowerPoint教材のスライドの作品をみて、感じたことを自由に、できるだけたくさん発言させる。 |
| 同じところ、違うところを見つけよう | |
| ○それぞれの作品を比較し、共通点や相違点を探し、ワークシートに書く。<br>「それぞれの作品の同じところ、違うところを見つけましょう。」 | ・３点のうち、2点を選んで比較する。<br>・活動が進まない児童には、直接言葉かけをしたり、アート言葉カードを渡したりして、考えのきっかけにさせる。 |
| ○グループで交流する。 | |
| ○クラス全体で発表し、交流する。 | |
| ○さまざまな材料（木・銅板・テラゾー）が用いられていることに気付く。<br>「これらの作品にはどんな材料が使われていますか。見つけてみましょう。」 | ・作品の部分の写真を提示する。<br>・材料や表現方法について説明し、同じ作者がさまざまな材料を使って作品を制作したことを知る。 |
| ○圓鍔勝三について知る。<br>「この３つの作品を作った人は圓鍔勝三という広島県出身の作家です。皆さんの身近なところにも圓鍔さんの作品があります。」 | ・郷土の作家であること、身近なところに圓鍔作品があることを知らせる。<br>・次の画像を提示する。<br>＊「花の精」（広島城前）<br>＊「鈴木三重吉文学碑」（平和記念公園内）<br>＊「朝」（広島駅新幹線口） |
| ○本時の学習の振り返りをする。 | |

## 授業風景

## 子どもの感想

- 見る角度が変わると違うものが見えてきて、とても楽しかったです。美術館に行ってもっと色々な作品を見てみたいと思いました。
- 友達の考えや思ったことを聞いて、初めて気がついたことがたくさんありました。自分の見る感じと人が見る感じでは、違って見えたし、3つの作品を同じ人が作ったと聞いて、とてもびっくりしました。
- パワーポイントでは、彫刻を色々な方向から見る事ができたので、たくさんのことを想像しやすかったです。

## ワークシート

## 板書計画

PowerPoint教材の構成

1.「これは広島県立美術館です。これからこの美術館所蔵の3つの作品を鑑賞します。」広島県立美術館にある作品を鑑賞することを知らせる。

2.「まず最初の作品です。これは何でしょう？」「人の形のようですね。何をしているところでしょうか？」作品をじっくり観察させて児童からの発見を促す。

3.「次は『ページェント』という作品です。これからいろいろな方向から見てみましょう。」さまざまな角度から作品をみる。

4.「最後の作品は『月夜の僧』という作品です。何が見つけられますか？」作品をじっくり観察させて児童からの発見を促す。

5.「この3つの作品のうち、2つを選んで比べてみましょう。同じところ、違うところを考えてみましょう。」作品を比較鑑賞し、表し方の違いに気付かせる。

6.「これらの作品には、どんな材料が使われていますか？見つけてみましょう。」使われている材料に目を向けさせる。

7.「『ページェント』には、何が使われていますか。木と銅板が使われています。木は『月夜の僧』にも、使われています。」使われている材料が同じでも作品によって感じが違うことに気付かせる。

8.「『タクト』には、どんな材料が使われていますか？『タクト』には、テラゾーという材料が使われています。」使われている材料について紹介する。

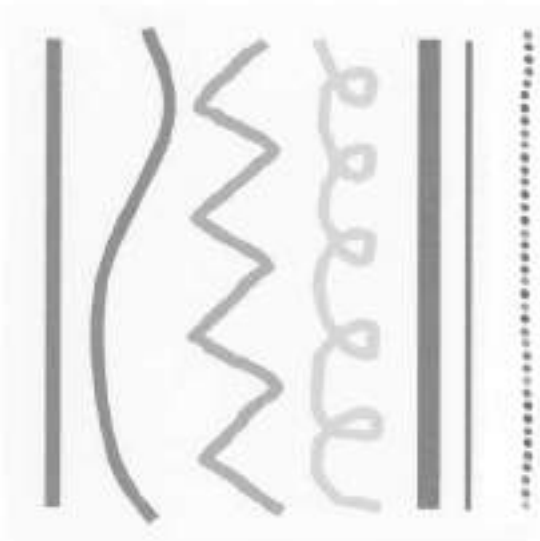
9.「今日紹介した3つの作品を作ったのは、実に凄い作家です。舟越保武さんという、広島出身の彫刻家です。舟越保武について紹介し、広島県で児童が見つけられる野外彫刻の作品を見せる。

＊本ページに掲載しているスライドは、授業の流れが分かるよう、代表的なものを選択しています。

# アート言葉カード（低学年）

## アートことばカード

### せん



まっすぐなせん
まがったせん
じぐざぐなせん
ぐるぐるのせん
ふといせん
ほそいせん
てんせん

### ざいりょうのかんじ

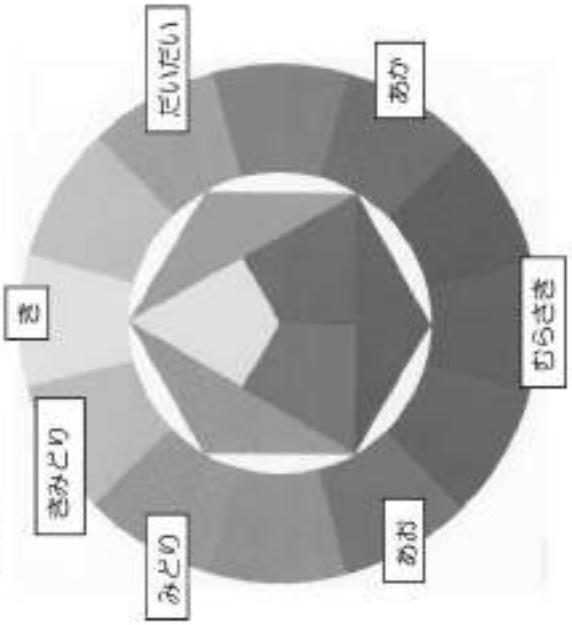
すべすべ

ごつごつ
ざらざら

ふわふわ
ちくちく

つるつる

### いろ




### かたち

しかく

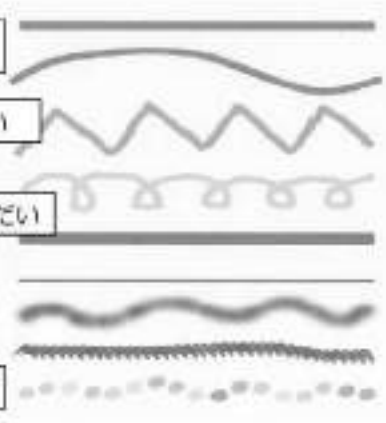
さんかく

まる

# アート言葉カード

## 色

## 線



## 色や形などの組合せ

## 形

## 材料の感じ

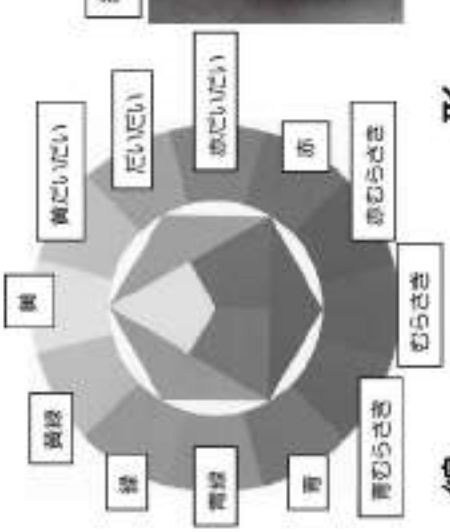
つるつる　ふわふわ　ごつごつ　すべすべ　ちくちく　でこぼこ
あたたかい　つめたい　おもい　かるい　かたい　やわらかい

アート言葉カード（中学年）

# アート言葉カード（高学年）

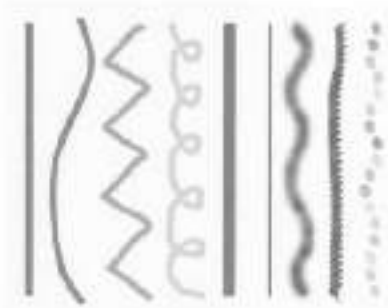
## アート言葉カード

### 色




### 構成

### 線



### 形

### 材質感

つるつる　ふわふわ　ごつごつ　すべすべ　ちくちく
でこぼこ　あたたかい　つめたい　おもい　かるい
かたい　やわらかい

# 作家・作品解説

## 善（ぜん）　鳩人（きゅうじん）（1916・大正5年－1989・平成元年）

広島市に生まれる。1931（昭和6）年、芦山学園に勤務。1945（同20）年に広島で被爆。1948（同23）年、山本丘人に師事し、同年の第1回自由美術展に出品。以後、同展（1951年に新制作協会と合併し、新制作協会日本画部となる）に毎年作品を発表する。家並や洋村風景などを抽象的な構成で表した昭和20～30年代の実験的な制作を経て、自身の被爆体験に基づいた一連の「華」シリーズを展開。それらの作品中には平和の象徴としての鳥の姿がしばしば描かれている。

《薄明（しのあけ）》
1961（昭和36）年　紙本彩色　110.0×155.0cm

■鑑賞のヒント

○フクロウの絵

幻想的で、ユーモラスな雰囲気も漂う画面。フクロウの表情も豊かで、擬人化しているように感じられます。この時期、画家はフクロウを集中的に描いていて、翌年の1962（昭和37）年には《樹鳥》という作品で、木とフクロウとが同化したような不思議な形態を画面いっぱいに描いた作品を発表しています。

○遠近感の表現に着目

描かれたフクロウや木の幹の大きさに注意して見てみましょう。並び立つ木々の枝、その重なり具合はどんなになっていますか？　さらに画面上部に目を移すと…空に浮かぶ月が、さらなる空間の広がりを暗示しています。

○作者の言葉

「色が形が　霧の樹海の中で　美しく光って見えた　私は憑かれたように　夢中で歩き続けた40年…。　進み、曲り、後退して　今…。　振り返る　道標はない　手さぐりで　進まなければならないだろう　遠い道。　険しい道。　ひとりだけの道を…。」

『追悼 善 鳩人回顧展』図録より

# 伊万里焼の名品

伊万里焼（有田焼）は、17世紀後半から佐賀県有田町を中心とした地域で作られるようになった磁器の総称。その名称は製品の多くが伊万里港から出荷されたことに由来している。伊万里焼は江戸時代中期からオランダ東インド会社を通じてヨーロッパ諸国へ盛んに輸出された。特に、華麗な色絵を施した柿右衛門様式と呼ばれる一群は、マイセンを始めヨーロッパの磁器成立に大きな影響を与えた。

《伊万里柿右衛門様式色絵馬》
17世紀後半　磁器・色絵　高45.0cm

■鑑賞のヒント

○この馬、どんな馬？

どっしりと安定感ある体、緊張感ある表情、華麗な衣装の文様は作品の美しさを際立たせています。現在のところ、世界で5体しか確認されていないうちの２体で、フランスからの里帰り品です。

○造形に着目

２体を比べて、同じところ、違うところを見つけてみましょう。表情を読み取ってみましょう。

○素材に着目

やきものの一種（磁器に色絵）。磁器は陶石を砕いた磁土を高温で焼いて作られます。

○さまざまなアプローチ

・歴史背景を知ると、理解が深まります

→輸出磁器としての柿右衛門様式

→ヨーロッパ人の磁器（というハイテク素材）に対する憧れ

・作品の名前を考えてみましょう

→担当の美術館学芸員はシロとアカと呼んでいます

## 熊倉（くまくら）　順吉（じゅんきち）（1920・大正9年－1985・昭和60年）

京都市に生まれる。1942（昭和17）年、京都高等工芸学校図案科卒業。1945（昭和20）年、京都市の公立陶磁器試験場研究員となる。1946（昭和21）年、与三郎窯の力三郎に弟子入り、富本憲吉からも指導を受ける。1949（昭和24）年、第5回日展初入選。1957（昭和32）年、第1回現代日本陶芸展で朝日新聞賞受賞。1957（昭和32）年、前衛陶芸グループ「走泥社」同人になる。以後、走泥社展に出品。1958（昭和33）年、ベルギーのブラッセルの万国博覧会でグランプリ受賞。1962（昭和37）年、チェコスロバキアの第3回プラハ国際陶芸展で銀賞受賞。その他、国内外の展覧会に多数出品、受賞を重ねた。

《笑いの稽古（たしなみ）》
1974（昭和49）年　陶器　高52.0×45.0×20.0cm

■鑑賞のヒント

○質感や色に着目

この作品は、「やきもの」。粘土で形を作り、焼いて作られています。身近にあるやきものを探してみると、おそらくほとんどは器のかたちをしているでしょう。この作品は器ではなく、同じ素材を使って自由な表現をしたものです。

○造形に着目

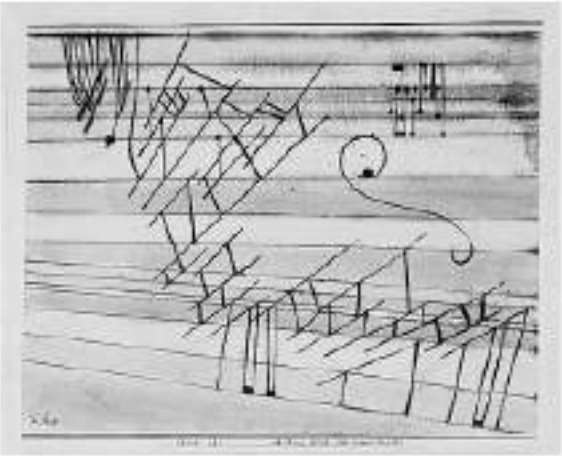
中央部は人間のおなかのようで、おへそのようなものもあります。手もあります。おもしろい形で、いろいろと想像がふくらみます。

○さまざまなアプローチ

・360度ぐるりとまわって全体を見てみましょう
　→前面と側面、背面ではイメージが異なります
　→想像してから見ると、イメージのギャップが感じられます
・部分に注目しましょう
　→全体を見ていた時には気付かなかったことが発見できます

## パウル・クレー（1879年－1940年）

スイス・ベルン近郊にうまれる。音楽教師の父と、声楽を学んだ母のもとで育ち、幼いころから音楽の才能を開花。ヴァイオリン奏者となるが、画家を志したクレーは、1898年、ドイツ・ミュンヘンにて絵画の勉強を始める。1911年には、「表現主義」（＝目に見えるものだけではなく、画家の心情をもしばしば作品に描き出す様式）のグループ「青騎士」と交流。1921年には美術学校バウハウスの教授となる。その後、ナチス政権のもと教授職を失う。1940年、亡命先のスイスにて市民権を取得するべく、中間の境界に死去。



《ある音楽家のための楽譜》
1924年　水彩・インク・紙　25.7×31.7cm

■鑑賞のヒント

○絵の特徴

画面一杯に、「楽譜のようなもの」が描かれています。通常の五線譜とは異なり、画面全体には幾多もの線が刻まれ、音符も独自の表現方法によって描かれています。絵の中に「音楽」があるのです。

○絵と音楽

音楽は常に流れ、留まることはありません。一方、絵に描かれたものは、動いたりしません。しかし、クレーによれば、それはどちらも「時間的」なもの。たとえば、絵を観る私たちの眼は、画面の部分から部分へと眼を動かしながら、作品を体験します。絵においても、音楽のように時間の流れは表現できるのです。

○作品の色

作品の色彩は水彩絵具によって淡く描かれています。それぞれの色が影響しあって、オーケストラのように同時に響きあい、全体的な印象を生み出しています。

○作品の線

まっすぐに描かれているように見える線の描写も、良く見るとフリーハンドで描かれ、微妙にふれたり曲がったりしていることが分かります。「音」が空間に響いていくような様子、はたまた「音」のあたたかさをそこに感じることができるかも知れません。

## 南　薫造（1883・明治16年－1950・昭和25年）

旧十の広島県呉七安浦町に生まれる。1907（明治40）年、東京美術学校を卒業後、渡欧。イギリスやフランスに滞在。帰国後、1910（明治43）年の第4回文展から、1913（大正2）年の第7回文展まで連続出品。渡欧作や、郷里の風景を温和で平明に描いた作品では特に注目を集めた。以後も帝展や光風会展、日本水彩展などで活躍。1944（昭和19）年、郷里で疎開。翌年は工員で仕事。1950（昭和25）年、郷里で死去。日本的風土の中ひやのな作風で、風景画を得意とした。

《風景（新橋）》

1930（昭和5）年　油彩・板　31.0×41.0cm

■ 鑑賞のヒント

○光を表す色

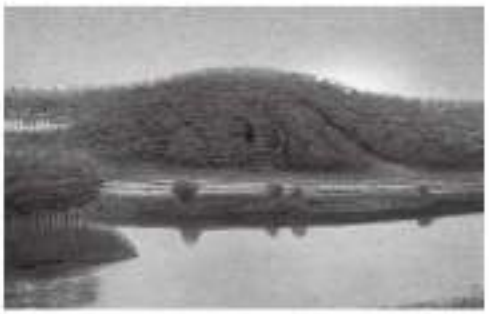
南薫造は、光の表現を大切にした画家です。黒田清輝らが日本に伝えた、新しい光の表現に影響を受けた作者は、影の部分でも真っ黒ではなく、光を含んだ色遣いで描くなど、明るい色彩表現を用いました。この作品では、陽射しの降り注ぐ人通りや建物、機関車の蒸気などを、温かく明快な調子で描いています。

○動きを表す線

活気のある街の景色を描いたこの作品には、実際に動き、変化するものが多く登場しています。人、車、機関車、蒸気など、本来動きのあるものが静止して見えないよう、明確な輪郭線を避け、動感を伝えるはやい筆の動きで表現しています。

## 奥田　元宋（1912・明治45年－2003・平成15年）

旧十の広島県三次市吉舎町に生まれる。東京で児玉光雲に師事。戦争の激化にともない郷里に疎開し、静謐な自然の中での制作をおこなうことで、風景画の世界に自らの進むべき道を見出す。1975（昭和50）年あたりを境として赤色を中心とした作風の制作を展開し、「元宋の赤」とも呼ばれた。1984（昭和59）年、文化勲章を受章。1996（平成8）年には壮麗な障壁画の大作を完成させた。



《待月》

1949（昭和24）年　絹本彩色　102.4×204.2cm

■鑑賞のヒント

○画家の心をとらえたふるさとの風景

戦争の激化にともなう疎開で東京から故郷に戻った画家は、生まれ育ったその地に広がる山河の美しさに改めて心打たれました。なだらかな松林と、その背後から今にも顔をのぞかせようとしている月。清々しい色彩で刻一刻と移ろいゆく一瞬の時を切り取っています。

○あこがれの画家、南薫造

元宋（本名：敬二）は少年時代、すでに活躍していた洋画家の南薫造にあこがれ、自宅の納戸の壁に「帝国美術院会員 南薫造先」「帝展審査員 奥田敬三」と落書きをして、画家への夢をふくらませていました。

## 圓鍔（えんつば）　勝三（かつぞう）（1905・明治38年－2003・平成15年）

現在の広島県廿日市市[illegible]に生まれる。京都の[illegible]に弟子入り後、1928（昭和3）年に上京し、日本美術学校で学ぶ。1930（昭和5）年、第1回帝展に《雪国》が入選。卒業後は、津田青楓に師事。1935（昭和40）年には《旅待》が日展文部大臣賞、翌年度作が日本芸術院賞を受賞。1968（昭和63）年に文化勲章を受章し、翌年広島県名誉県民となる。1993（平成5）年、郷里の廿日市市に圓鍔勝三彫刻美術館、東京駅八重洲口、広島駅、広島平和記念公園など公共彫刻も数多く手掛けた。

### 《タクト》

1963（昭和38）年　テラゾー　高165.0×39.0×98.0cm

■鑑賞のヒント

○タイトルの意味

タクトとは、音楽の演奏を指揮するときに使う指揮棒のことです。

○造形に着目

胸や腰に開けられた穴、ギザギザしたフォルムで造形化された腕、針金で枠組みだけが表現された頭部など、抽象的な表現が取り入れられています。

○素材に着目

ここで使用されるテラゾーとは、大理石のような質感を持たせるため、セメントに石の砕片を混ぜたものです。

### 《ページェント》

1979（昭和54）年　木・銅板　高116.0×118.5×75.0cm

■鑑賞のヒント

○タイトルの意味

「ページェント」を翻訳すると「野外劇」です。

○素材に着目

中央の女性が手にする獣の面や鳥の被り物、また作品全体を覆う銅板の一つアンメと富む緑がミステリアスな雰囲気を醸し出し、個性豊かな登場人物たちが繰り広げるドラマに想像がかきたてられます。

### 《月夜の僧（つきよのそう）》

1985（昭和60）年　木・銅板、彩色　高85.0×97.0×90.0cm

■鑑賞のヒント

○いろんな形と色

僧（お坊さん）が行く道、木々、そして月。材料の木そのものの色だけでなく、金や銀など、いろんな色で形を表しています。

○作者の言葉

「自分のこれから目指そうという彫刻の道は、托鉢僧の歩いて行く道と同様に、長く険しいものであるに違いない。決意をもって、進んでいかねばならない。」と京都での修行時代に圓鍔さんは考えました。当時の修業生活とともに、98歳で亡くなった作者が辿った厳しい制作の道を彷彿とさせる作品です。

## 平成23・24年度　学校と美術館との連携による鑑賞教材開発事業

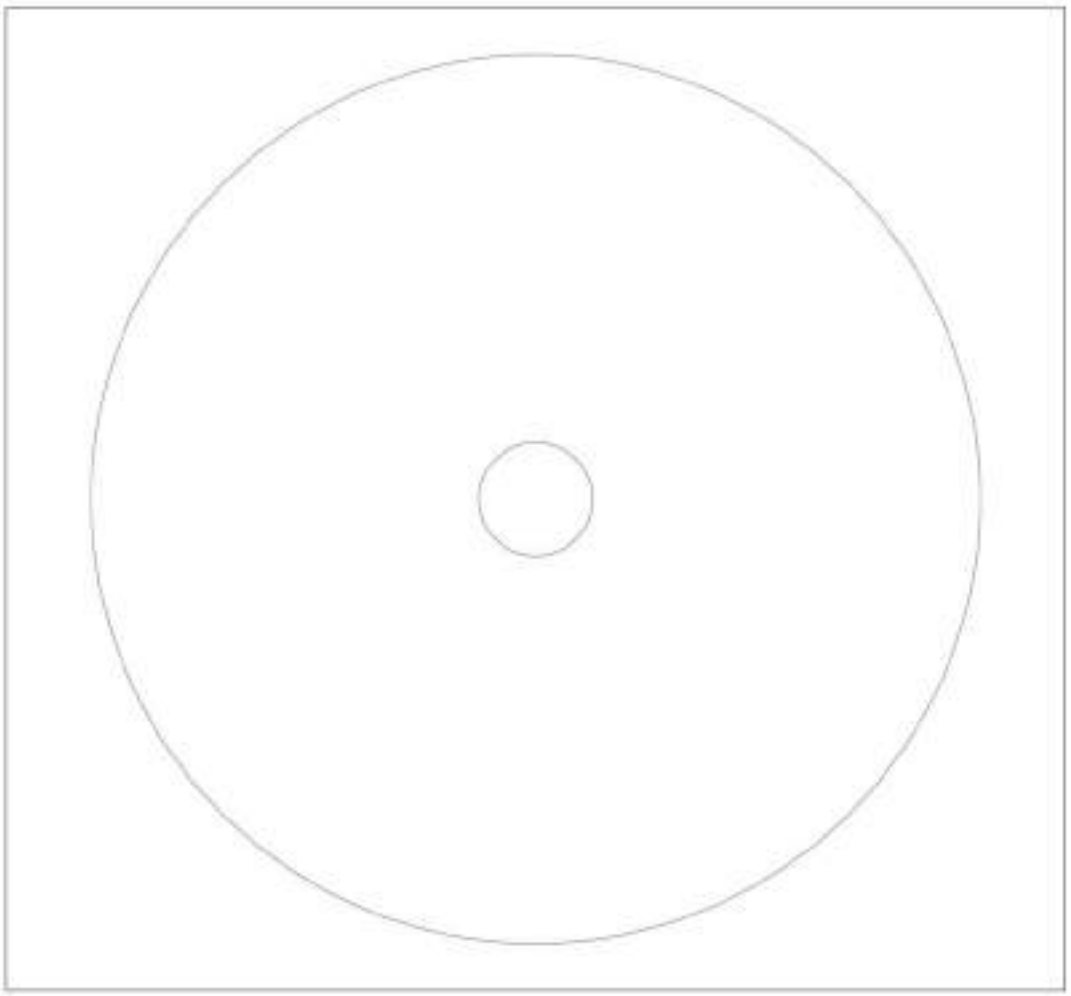
協力員

| | | |
|---|---|---|
| 広島市立段原小学校長 | | 三上　玲子 |
| 広島市立宇品小学校教頭 | | 増田　紀美 |
| 広島市立本川小学校 | | 西田　恭子 |
| 広島市立観音小学校 | | 柳原真由美 |
| 広島市立吉島東小学校 | | 佐々木　芳 |
| 広島大学附属小学校 | | 國清あやか |
| 広島市立吉島東小学校 | | 加嶋　真子 |
| 広島市立東野小学校 | | 大久保和恵 |
| 呉市立郷原小学校 | | 紺田　　唯 |
| 広島県立美術館 | 担当 | 永井　明生 |
| | | 藤崎　　綾 |
| 広島大学大学院教育学研究科 | 担当 | 中村　和世 |


**広島県立美術館アート・トーク入門**
**－教室でできる美術館鑑賞－**

平成25年1月30日発行

編集・発行　広島県立美術館（広島県広島市中区上幟町2-22）
広島大学大学院教育学研究科（広島県東広島市鏡山1-1-1）
研究代表者　中村　和世
【平成22年～24年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）
（課題番号 22530976）
「教員養成・美術館・小中連携による批評力を育むグローバル時代の美術教育カリキュラム」の研究成果報告書の一部】
印　　刷　タカトープリントメディア（広島県広島市中区千田町3丁目2-30）



・作品画像の縦横比が正確なものになるよう、必要に応じて再生機器の設定を調整してください。
・ここで紹介している作品がつねに美術館で展示されているわけではありません。
・作品画像は、教育目的以外で利用しないでください。